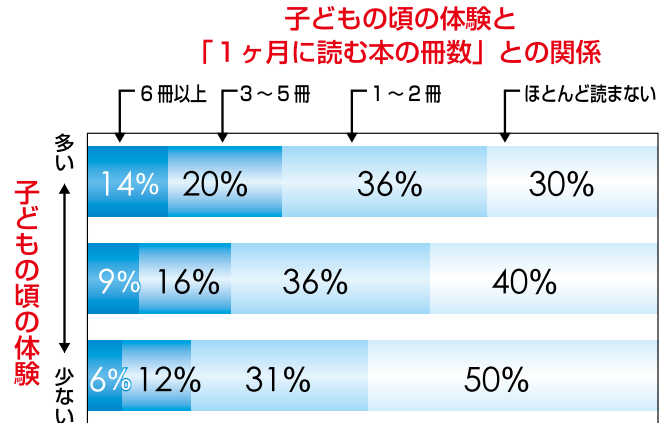
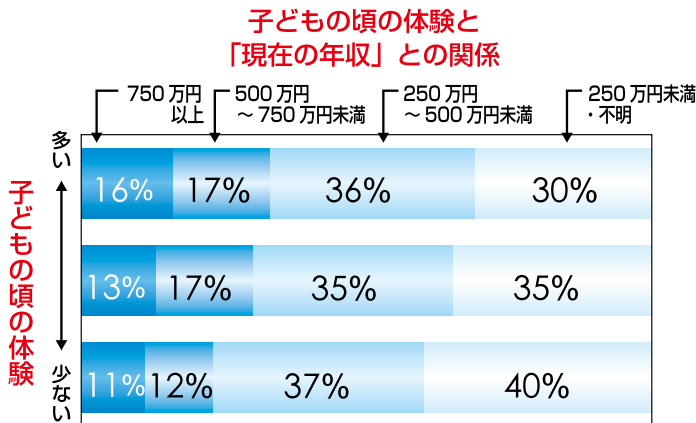
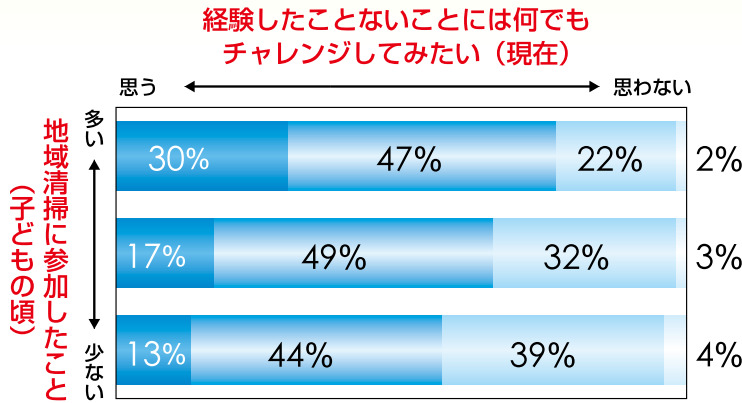


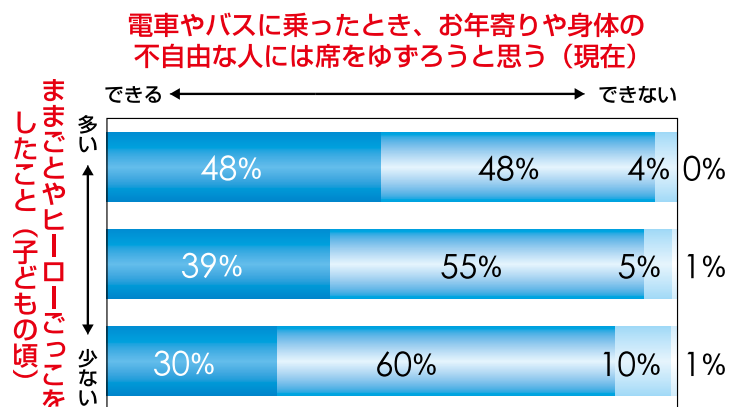
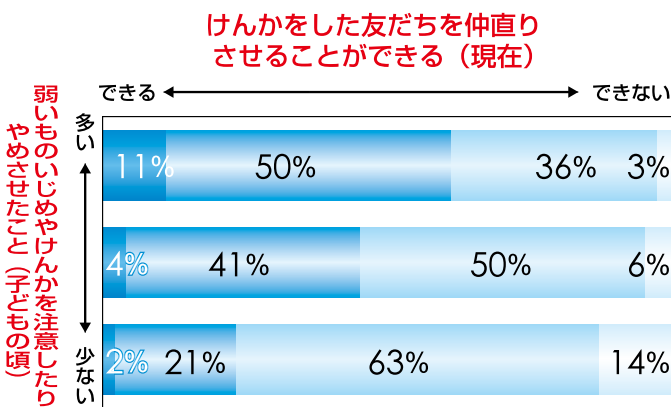
# 子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります

子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向があります。また、そうした子どもの頃の体験が豊富な人ほど、現在の年収が高く、1ヶ月に読む本の冊数も多くなる傾向にあります。



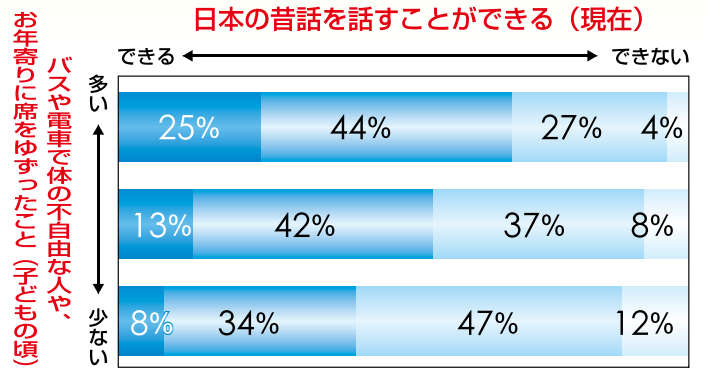
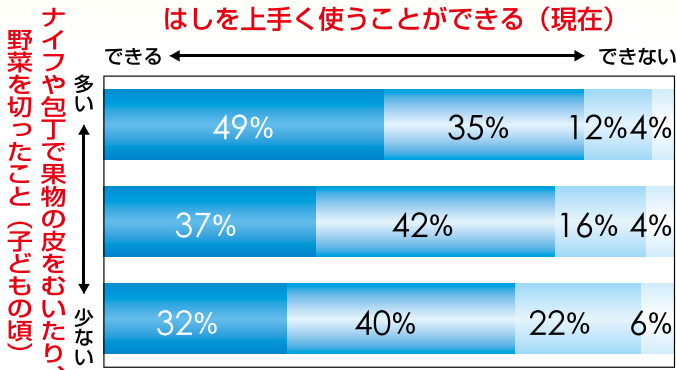
# 子どもの頃は家庭や地域などで様々な体験をすることが大切です

「弱いものいじめやけんかを注意したり、やめさせたこと」が多いほど、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」というように相互の関連が見いだしやすい項目の間だけでなく、「ままごとやヒーローごっこをしたこと」と「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった、直接の関連が見いだしにくい項目の間にも相関関係が見られます。大人になってからの資質・能力は、家庭や地域における子どもの頃の様々な体験と関係しています。



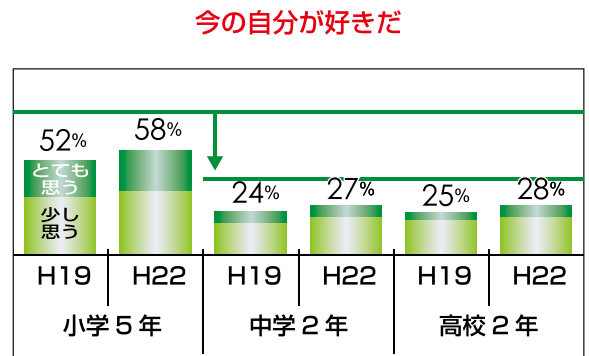
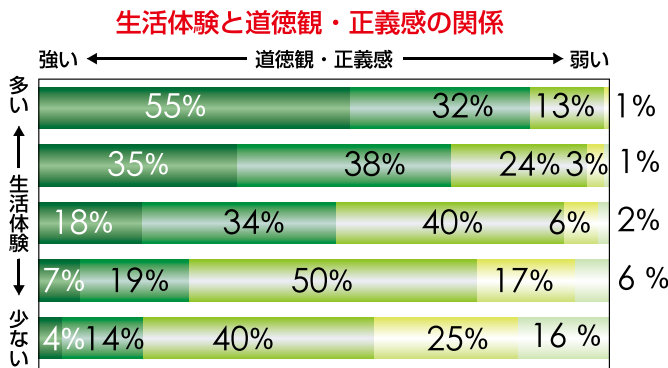
# 日本の伝統的な作法や教養も子どもの頃の体験と関係しています

日本の伝統的な作法や教養も、自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝いなどの子どもの頃の幅広い体験と関係しています。



# 中学生になってもお手伝いや地域活動が効果的です

体験が豊富な青少年ほど道徳観・正義感が強い傾向にあります。また、中高生は小学生に比べて、自己肯定感が低くなっていますが、体験が多い青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にあることもわかっています。中高生は、勉強や部活で忙しいかも知れませんが、体験は大切です。

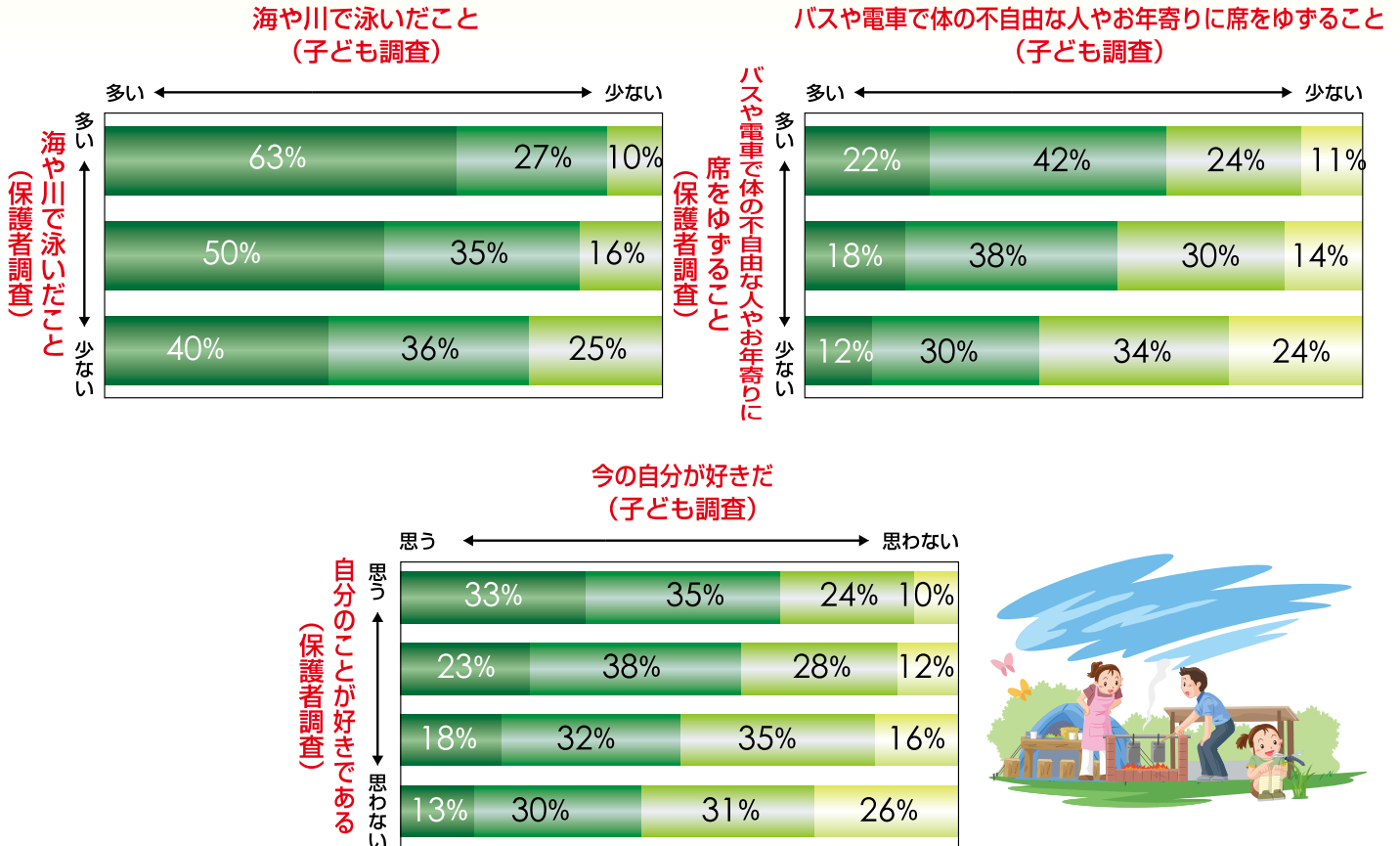


国立青少年教育振興機構では、子どもの頃の体験（自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝い）によって、得られる資質・能力（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的作法・教養）について調査研究会（座長 明石要一 千葉大学教育学部教授(当時)）を設け、成人（20代～60代 5,000人）を対象に調査を実施しました。あわせて、青少年の自然体験、生活体験・習慣の実態や自立に関する意識等について、青少年（小学校4年生から高校生約19,000人）を対象に実施した調査結果についても提示しています。

出典：「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」、「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」

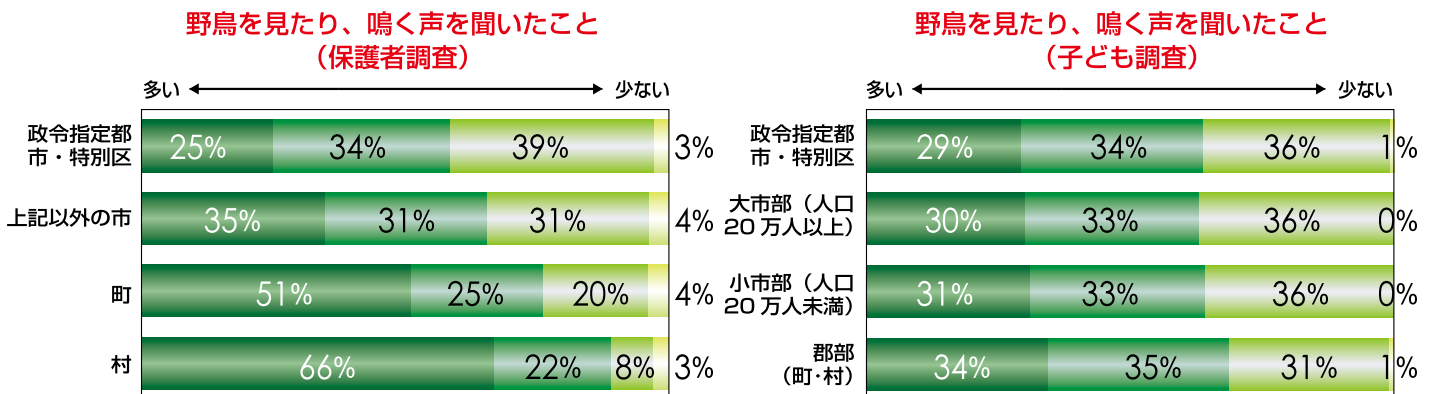
# 子どもの体験や意識は、親の体験や意識と関係しています

子どもの頃に多く体験を行ってきた保護者ほど、その子どもも体験を多く行う傾向にあることがわかりました。また、自己肯定感の高い保護者ほど、その子どもも自己肯定感が高い傾向にあるなど、保護者の体験や意識は子どもに大きな影響を与えています。



# 現在の子どもたちは、住んでいる地域による体験の差はほとんどありません

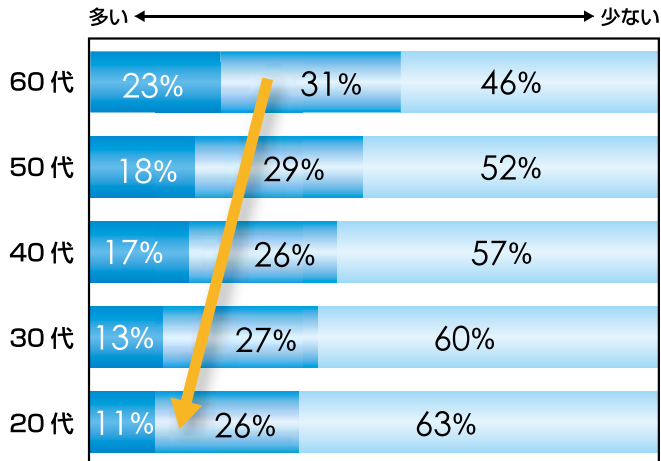
保護者が子どもの頃に自然体験を行った頻度は、中学生までの居住地の種類によって違いが見られましたが、現在の子どもたちの自然体験については、居住地の種類による違いはほとんど見られませんでした。



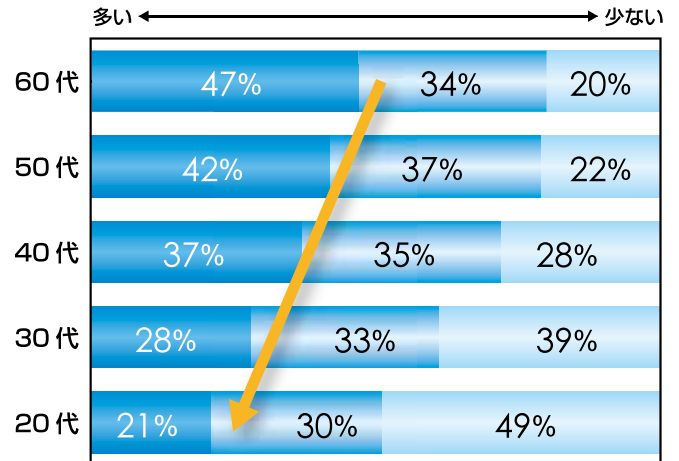
# 自然体験や友だちとの遊びが減っています

60代から20代まで、年代別に調査を行ったところ、自然体験や友だちとの遊びが、若い年代ほど減っていることがわかりました。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり  
魚を釣ったりしたことの推移



小学校4～6年生の頃にすもうや  
おしくらまんじゅうをしたことの推移



みなさんは、どんな体験をしていますか？  
家族や友だちと一緒に、イラストを見ながら  
普段の体験をチェックしてみましょう！

★ チェック！



自然の中で活動する



友だちと遊ぶ



動植物の世話をする



地域の行事に参加する



家族で行事を行う



家のお手伝いをする